

# 我が子を持ち

## 始めて知る親の恩

「親の心子知らず」とはよく言ったものです。私も遂に父親になりました。

今月号は、可愛い我が子の出産時ノンフィクションを、皆様にご披露させていただきます。お付き合い下さい。

まさに待ちに待ったとは、こういう事を言つのでしょつか、妻、知世のお腹の中に着床してから十月強、先月11日の午後1時53分、元気な女の子が富山市中央病院で、大きな産声を上げました。予定日が4月の下旬だったので、「初産だし五月に入る可能性もあるね」なんて呑気なことを話していましたが、フタを開けてみたら二週間以上も早くに生まれ出てきました。

先月は8日にお釈迦様の花祭りの法要がありましたので、終わって翌9日に里帰りしました。そして10日の夜中2時過ぎに破水し、翌11日に出産という運びでした。

私は、破水の知らせを聞いて、慌てふためき、取る物も取り敢えず、気が付けば病院に向けて車を走らせていました。病院に到着し、知世の顔を見たら、意外と落ち着いており、ホッと安心しました。そして看護婦さん曰く「破水しても、まあ早くても1日、長い人で3日かかるという人もいるから、慌てることもないと思います。今晚のところはお帰りになっ

て、自宅で待機していただく」とのこと。

そして翌日、軽い睡眠不足の中、不安と期待で、何だか落ち着きません(ドキドキ)。

思えば着床してから毎日のように、お腹の中の赤ちゃんに声をかけては、段々と親としての責任というものを考えながら過ごした日々を思い出すと、目には自然と熱いものが込み上げてきます。それがいよいよ現実のものとして誕生を迎える段取りが出来上がってきています。男つてのは、こういう時に何も出来ないのが、もどかしいですね。女性は強し(笑)。

妻の母から電話を頂いたのが11時半頃でした。「陣痛も順調に進んで、お昼には生まれそつよ。寛敬さんも手が空いたら病院までお願いします」との連絡を頂いた時、本当は12時半から車の祈祷が予定に入っていたものの、ここは任職に仕事を押し付けて、私は一目散に病院へ向かいました(困つた時の何とやら：任職に感謝)。

到着してみると、すでに分娩室の中。入室してから30分が経過していました。私は持参してきた、精神を癒すといわれる音楽をかけて(デッキも持参)、枕元には赤ちゃんの産声を録音する為のボイスレコーダーをセット。そして出産直後の風景を残すのに、カメラを持参して万全の体制で分娩室に入りました。それから知世の手を握り、冷たいタオルで汗をかいた顔を拭き、湯いた喉には水を含んであげました。力んだ時には一緒に「頑張れ！次の踏ん張りです！新しい命を誕生させるぞ！」と看護婦さんや担当医の先生共々、全員が1つの命の誕生を、声をかけ合いながら、全勢力を傾け

ました。私は心の中で「南無妙法蓮華経南無妙法蓮華経」と繰り返して唱え続けていました。そして、分娩室に上がってから約2時間、ゴックリ、ゴックリ頭を覗かせ、クルクル回転しながら、その神秘的な人類の誕生を、私は目の当たりにする事が出来ました。「やった！私達にも春が舞い降りた！」心の中でそう叫んでいました。取り上げられた時、その部屋の空気が清浄な、まさに仏の世界に安住しているが如く感じ、私と知世、そして周りで一緒に出産に立ち会ってくれた研修生も、皆が自然と感動の涙にぐれました。

赤ちゃんは髪の毛はフサフサ、目をパッチリ開け「オギャーオギャー」と元気な産声を上げ本当に元気な女の子です。ヘソの緒を切ると、そのまま母親(知世)のお腹の上に乗せられ(カンガルークエアと言います)、毛布を掛けると、あら不思議、元気に泣いていたのが嘘のように、ピタッと泣きやんだかと思えば、これは人類の本能なのでしょね：赤ちゃんが自分でお母さんのおっぱいを探し始めるのです。そして乳首を口にくわえるんですから、まさに人類の神秘の世界です。凄いですね。(驚愕)。

この赤ちゃんを「天花(てんか)」と名付けました。檀家さんをはじめ、周囲の皆様は沢山の祝福を頂きました。その中で私は「そつか、人が1人この世に生を受けるというのは、こういう事か」と。人は1人では生きる事は出来ません。1人の私という人間が成長するためには、親は勿論その他、数え切れない人達の温かい心と温かい救いの手があつて初めて、人が人に成れる事を実感して、親の有り難さを本当に感じる事が出来ました。

これから色々な問題も起こり、頭を悩ますことも多々あると思います。子供には親の存在が欠かせません。しかし親も「この子の為なら」と力が湧いてくる原動力になることも間違いありません。これからは親という立場の難しさを実感しながら、頑張っていきたいと思えます。

皆様には、今まで以上の温かい指導を賜りながら成長していきたいと思えますので、「**天花**」をはじめ、新米パパとママをよろしくお願い致します。

合掌

副任職(新米パパ) 谷川 寛敬

